

2026年度 後期

たいし塾

開催場所：四天王寺大学

無料

テーマ「善く生きるということ」

— 人・社会・自然とのつながりから考える —

時間：13時30分～15時00分

私たちは、どのように生きることを「善く生きる」と呼ぶのでしょうか。本講座では、生命の尊さ、他者との「和」、災害や喪失、そして人間と自然との関係など、さまざまな視点から人間の生き方を考えます。人は決して一人で生きる存在ではありません。人とのつながりや支え合い、自然や世界との関係を見つめながら、人生における喜びや苦しみ、別れや感謝を手がかりに、私たちににとっての「善く生きる」とは何かを考えます。

12/5(土)

講座No.

A

▶ 「善く生きる」とは何か

— 『100万回生きたねこ』の道德科授業を通して
教育学部/教育学科 杉中 康平 教授

絵本『100万回生きたねこ』の道德科授業を体験し、受講者同士で思いを交わします。さらに私の家族の歩みをとおして、「生命の尊さ」と「よりよく生きる喜び」、仏教の「有り難し」と「感謝」について考えます。

12/19(土)

講座No.

B

▶ 災害時に善く生きるための『和』を捉える

— 被災地の姿と被災地への支援活動から
教育学部/教育学科 吉田 祐一郎 准教授

日本では近年、ほぼ毎年災害に見舞われています。そうして避けることができない災害の発生時は、人としてどのように今を善く生きるのか問われる機会ともいえます。被災地での支援活動に参画する立場から生きることについて問いたいと思います。

1/9(土)

講座No.

C

▶ 善く生きるとは

— 喪失を通して考える

非常勤講師 西岡 秀爾 講師

人生の最期や大切な人との別れを手がかりに、「善く生きる」とは何かを考えます。ターミナルケアやグリーフケアの現場でお出会いする多様な生き方や価値観に触れ、喪失をどう受けとめ、どう生きるかを見つめ直します。

2/6(土)

講座No.

D

▶ 食から見つめる人と自然

— 地理学から考える「善く生きる」

文学部/日本学科 齋藤 鮎子 講師

私たちが毎日口にする食べ物は、自然環境や地域の歴史・文化、人々の暮らしと深く結びついています。世界や日本の食文化を地理学の視点から読み解き、人々が自然と向き合いながら培ってきた知恵や営みを通して、人・地域・自然とのつながりと「善く生きる」ことについて考えます。

2/20(土)

講座No.

E

▶ 人間と自然の関係を考える

— スピノザと日本仏教から見る「善く生きる」

社会学部/社会学科 藤谷 厚生 教授

人間は自然とどのような関係にあるのでしょうか。本講座では、スピノザの「神即自然」の思想と、日本仏教における「自然法爾」や法界の思想を手がかりに、人間を自然から独立した存在と捉えない世界観を考えます。両者を比較しながら、自然の中で人間が「善く生きる」とは何かを問い直します。